

---

反対694844票の質的考察

薬師院仁志

1. 2011年大阪市長選挙との比較

2011年大阪市長選：全24区で橋下候補が多数票（西区が突出）。

2015年住民投票：賛成多数＝11区・反対多数＝13区。

賛成55%超は：北区、西区、福島区、淀川区（特に北区と西区）。

反対55%超は：大正区、平野区（旭区は54.79%）。

※特徴的な区を挙げると、以下の4類型を指摘できる：

A. 西区と北区（および中央区）：両回とも相対的に維新強

2011年市長選で橋下候補＝他区より高い（西区が1位、北区が2位）。

2015年住民投票で賛成票＝他区より高い（北区が1位、西区が2位）。

投票率＝全市平均をやや下回る（福島区も似ているが、投票率が西区や北区と比べて少し高い）。

B. 平野区と旭区（および大正区）：両回とも相対的に維新弱

2011年市長選で橋下候補＝他区より低い（大正区は17位、24位は西成区）。

2015年住民投票で賛成票＝他区より低い（大正区が24位で最低）。

投票率＝全市平均とほぼ同じか少し高い。

（旭区と平野区は、2011年市長選と2015年住民投票で22位と23位）

C. 天王寺区：明らかな逆転現象が観察される唯一の区

2011年市長選で橋下候補＝他区より高い。

2015年住民投票で賛成票＝他区より低い。

投票率＝全市平均をやや上回る。

D. 浪速区：投票率が高まらないが維新強。

2011年市長選で橋下候補＝他区より高い（低投票率にも拘わらず5位）。

2015年住民投票で賛成票＝他区より高い（24区中7位）。

投票率＝両回とも他区ほど上がらず、相対的には顕著に低い。

## 2. 各区の特性と投票傾向

たしかに、「西区と北区（+中央区や福島区）」と「平野区と旭区」を比較した場合、高齢化率が低い方が「橋下候補」および「賛成」に投票する率が高いという傾向が読み取れる（若年層＝維新）。この傾向は、全体と矛盾しない。また、北区や西区は、高齢化率が低く単身世帯が多い。つまり（中央区などと同様）若い世代の単身者が比較的多い。これも維新支持に繋がっている。

ただし、北区（19.3%）と浪速区（19.8%）の高齢率の差は0.5%に過ぎないが、2015年住民投票における賛成票は「北区＝59.03%、浪速区＝52.67%」、2011年大阪市長選における平松候補の惜敗率は「北区＝53.08%、浪速区＝60.72%」と大きな差がある（どちらも維新強という点は同じだが度合いが違う）。

浪速区の場合、高齢化率が低いだけでなく、「区人口」に比べて「有権者」が少ない。また、転入人口の割合が高く、男性人口が女性成人人口より少し多い（西成以外で唯一）。若年単身者（特に男性）が多いが生活保護も平均より多。

有権者／区人口：全市平均＝78.12% 浪速区＝70.85%

→住民の出入が極めて激しい？

→無関心層＝棄権多→維新票に限界？。他方、定住（高齢）層が反維新？。

北区や西区もまた、転入出が多い傾向があり、住民の入れ替わりも比較的多いが浪速区ほどではなく、その分だけ「若年棄権＝少」→「維新強」？。

事実、北区や西区は、2011年の大阪W選以後、投票率の上昇幅が比較的大きい。2003年大阪市長選挙の浪速区投票率は29.73%だが、全市平均が33.31%であり（全市の89.25%）、突出して低いわけではなかった（この比で計算すれば、2015年住民投票の浪速区投票率は59.65%となる）。他方、2003年大阪市長選挙の北区投票率は30.81%、西区投票率は29.82%で、浪速区と大差なかった。

大正区と旭区は高齢化率が高め、平野区も全市平均よりは高い。三区とも生活保護率は平均より高い。転入出の割合は北区、西区、中央区（や浪速区）よりも小さく、加えて大正区は転出超（人口減）。平野区は農地が残る土地柄（定住）。市長選投票率に関して言えば、大正区、旭区、平野区は、少なくとも2003年以後、西区や北区よりも一貫して高い。このような地区では維新弱。

ただし、西成区は高齢化率が37.2%と突出し、生活保護率も23.52%と大突出しており、転入出も特に多くはないが（入超）、住民投票の反対率は53.25%で、24区中7位であり、こちらは突出して多いわけではない。ただし、2011年大阪市長選での平松候補の惜敗率は唯一85%を超えていた。男性投票率（恐らく高齢

者) が低い点以外は、ほぼ全体傾向と矛盾せず。

天王寺区は、「2011 年大阪市長選」と「2015 年住民投票」とで投票傾向が明らかに逆転。高齢化率 (19.4%) や生活保護率 (2.14%) は低く、転入出は少し多めなので、一貫して維新強=賛成多数でおかしくない。ただ、2014 年 12 月衆院選における公明党の得票率を見ると大阪市全体で 17.92%だったのに対し、天王寺区は 20.17%であり、これが逆転現象の要因ではないか。

さらに、大正区は 2014 年衆院選における公明党の得票率が 22.47%だった。2015 年年住民投票で大正区の反対率が最も高かったのは、元々の反維新傾向に加え、公明党支持者の票が多く上乗せされたからだと思われる。

最も注目すべき点は、2007 年市長選の際、北区 (42.90%) と西区 (43.02%) は平松候補の得票率が全市平均 (40.60%) より高かった一方、平野区 (39.23%) と大正区 (38.13%) は平松候補が首位であったが、その得票率は全市平均未満だったことである。

実際には、どの区にも単身若年者も長期定住高齢者も新規転入家族もいるし、区ごとの特性差にしても大きくない。しかし、だからこそ、小さな特性差が小さな投票傾向差を反映し、全体の傾向を象徴しているとも考えられる。そこで、以上に挙げた諸事実から、以下の推論を試みることができよう。

西区や北区の投票傾向は、投票率の上昇 (とりわけ西区) という面も含め、単に「改革」という抽象的なイメージに影響されていると思われる (特に「官から民へ」といった短絡的な新自由主義的改革)。そのため、2007 年の大阪市長選では「民間出身」で民主党系だった平松候補の得票が多かったと推察される。それを支えたのは、現役世代、特に現役単身層で、大阪市以外から転入して来た人々の割合が比較的多いと思われる。転入出の多い区は、人の入れ替わりが多いにも拘わらず、改革イメージの維新が強い。(相乗り候補がなく全市的に投票率が上がったのも民間出身の平松候補に有利であった可能性。)

自民党支持層の中にも多くの「住民投票賛成派」が存在した要因は、北区や西区に住む大阪以外からの転入者にとって、自民党支持は国政レベルでの話であった可能性がある。ちなみに、経済力は中央区が突出し (市内税収源の約 4 割)、次いで北区と西区が他の 21 区に大きな差をつけているが、だからこそ特

別区になる利点はないと言える。

逆に、平野区や旭区（および大正区）などは、高齢者を含め、長期定住者や定着人口の割合が比較的高く、イメージに左右されにくく、投票率も比較的高い傾向があると考えられる。

西成区の高齢者率が非常に高い（特に男性）原因は、区外からの転入に起因する部分が多い（転入出が激しいのではなく長期傾向）。そのため、投票率が比較的低い上、2011年の市長選では、大阪的な橋下人気を他区ほど共有しなかったのかもしれない？。ただし、生活保護率が突出しているとはいえ、四分の三以上は非生活保護受給者であり、2015年住民投票では、西成の印象を消したい住民層の賛成も見られたようである（中央区になってイメージチェンジ）。

#### 結論：全般的印象

第一に、単に若年層か高齢層かで維新支持が左右されているのではない。大阪市の若年層に維新支持が多いのは、市外から転入して来た単身者が多いという要因も重要。

第二に、維新支持は、中身とは無関係に、一種の〈改革〉イメージに支えられている。実際、維新支持が強い北区や西区は、2007年の市長選では「民間出身」の平松候補への支持が相対的に強かった。

地域への帰属意識が薄い住民層ほど、抽象的なイメージに惹かれる傾向があり、時流に乗った政治に流れがち。しかも、イメージが先行すると個別政策の中身を見捨てた全肯定になりがちで、他者との対話が困難になる。維新政治は、様々な類型の大阪市民を前にして、その統合ではなく、自社ブランドの差別化のようなイメージ戦略を取り、無党派若年層（最も統合すべき人々）を中心に多数派を獲得しようとした。その結果、大阪市民が分断される弊害が生じた。

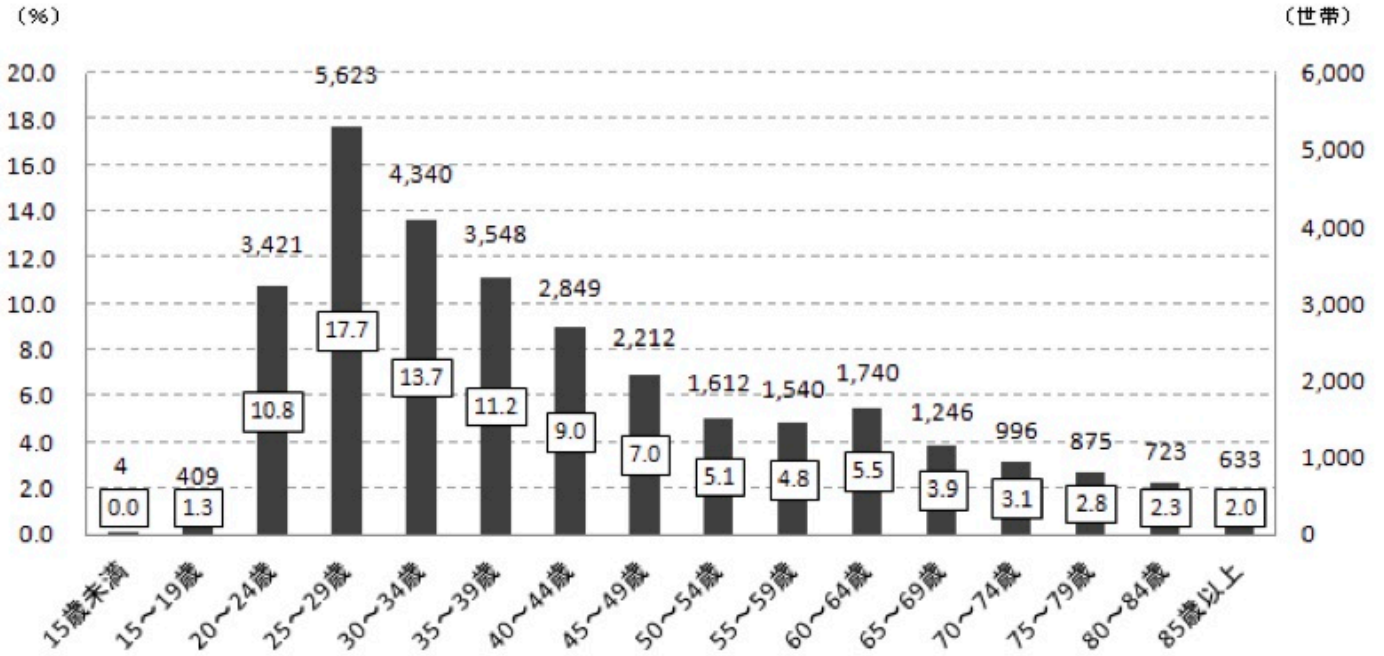
イメージに流されない市政参加の促進には、区割りや役所の仕組みよりも、新住民も含め大阪市への帰属意識や地域アイデンティティの強化が重要。また、長い目で企業誘致や住民増を図るにも、短期的な利益に囚われず、地域振興や文化興隆、住民福祉の充実を通じた魅力ある町づくりが有効ではないか。教育や治安にしても、単なる予算額よりも、むしろ地域に対する住民の意識が重要（バラバラの個人に塾代を配るのではなく、市立の学校を良くしていこうといった政策）。逆に、もし特別区が設置されていれば、住民の帰属アイデンティティが極めて低い自治体が形成された危険性がある。

	2011大阪市長選 平松氏惜敗率	2011大阪市長選 投票率	2015住民投票 賛成投票率	2015住民投票 投票率	高齢化率 2013	生活保護率 2015
北区	53.08% (2)	60.31%	59.03% (1)	65.07%	19.30%	2.14%
西区	43.95% (1)	58.68%	57.66% (2)	64.62%	15.90%	1.77%
中央区	53.54% (3)	58.42%	54.09% (5)	62.88%	16.70%	2.46%
福島区	62.33% (7)	62.12%	55.56% (3)	68.64%	19.60%	3.21%
浪速区	60.72% (5)	48.87%	52.67% (7)	52.82%	19.80%	9.02%
天王寺区	62.19%(6)	64.66%	46.82% (17)	71.78%	19.40%	2.14%
平野区	83.95% (23)	61.01%	44.72% (23)	65.56%	26.30%	7.00%
旭区	84.47% (22)	63.63%	45.21% (22)	69.12%	28.20%	5.22%
大正区	77.12% (17)	61.12%	43.97% (24)	68.87%	28.10%	5.86%
西成区	85.91% (24)	55.63%	46.75% (18)	60.34%	37.20%	23.52%
	平均 69.61%	平均 60.92%	平均 49.62%	平均 66.83%	平均 24.20%	平均 5.53%

#### 投票率

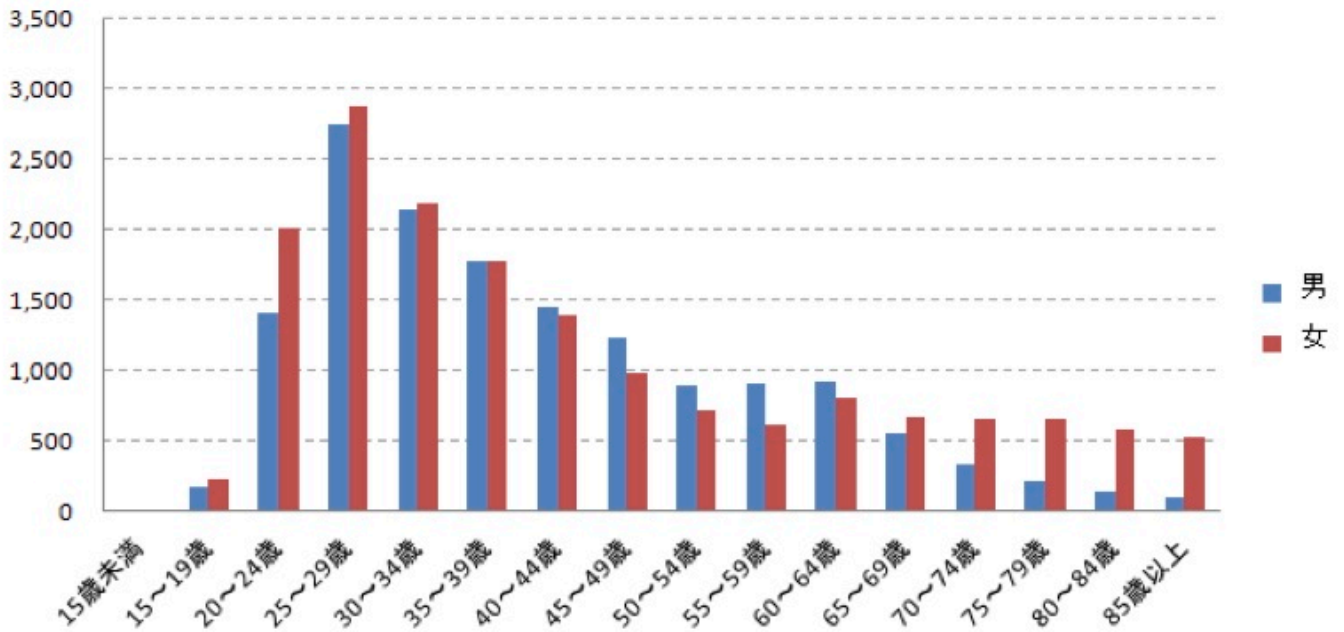
	2003	2005	2007	2011	2015
西区	29.82%	29.66%	37.45%	58.68%	64.62%
北区	30.81%	31.73%	40.46%	60.31%	65.07%
平野区	34.16%	33.17%	44.80%	61.01%	66.56%
旭区	36.77%	36.50%	46.54%	63.63%	69.12%
大正区	35.47%	35.37%	45.72%	61.12%	68.87%
浪速区	29.73%	28.31%	34.40%	48.87%	52.82%
天王寺区	34.69%	35.75%	43.59%	64.66%	71.78%
全市平均	33.31%	33.92%	43.61%	60.92%	66.83%
	関	関	平松	橋下	

### 中央区の年齢別単身世帯数(平成 22 年)

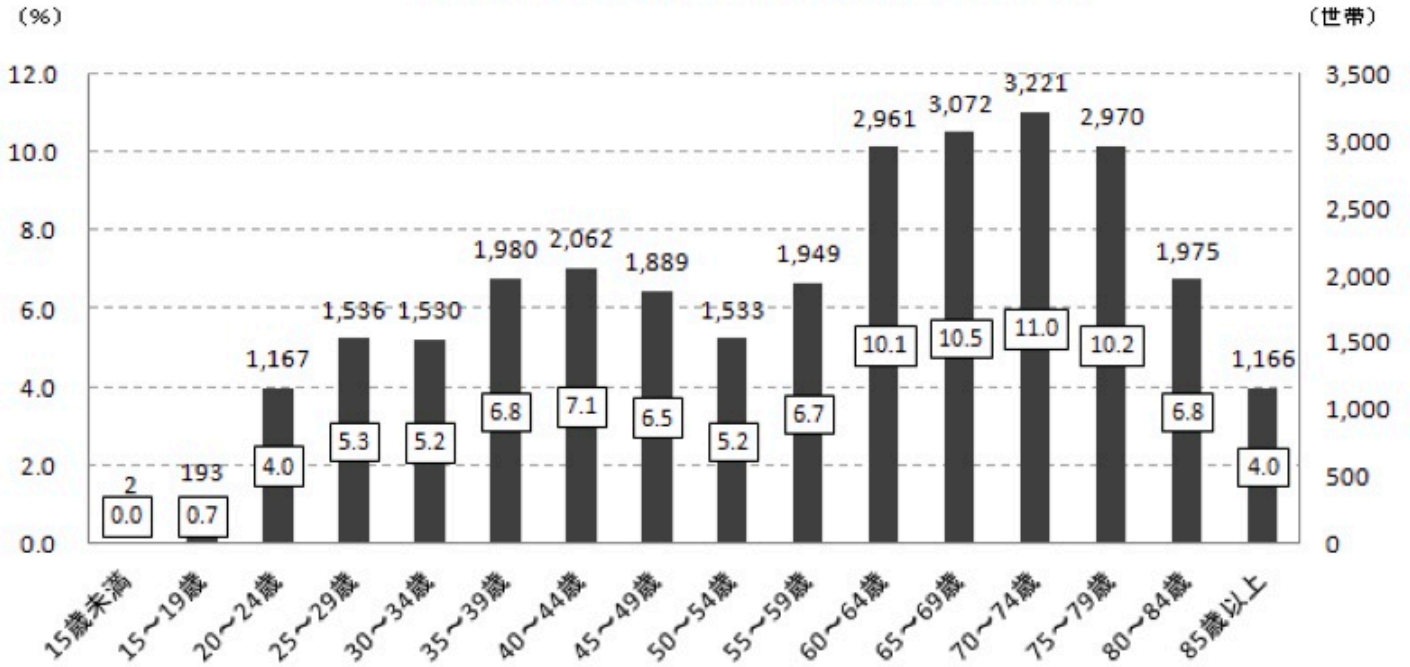


### 中央区の男女別単身世帯数(平成 22 年)

(単身世帯数)



### 平野区の年齢別単身世帯数(平成 22 年)



### 平野区(上:年齢別単身世帯数、下:男女別単身世帯数)(平成 22 年)

(単身世帯数)

